

日本遺産 / 相良 700 年のストーリー

相良家は、鎌倉の将軍・源実朝（1192～1219 年）によって人吉球磨地方に任じられて以降、700 年間近く人吉地方を統治し続けました。相良家は仏教文化を重んじ、新たな手法や技術を時代に合わせて取り入れました。相良家は、慎重な統治を行い、かんがいなどの公共事業によって経済成長に貢献し、地域に繁栄と安定をもたらしました。この安定により、京都のような国の古都に匹敵する、様々な文化財と豊かな文化遺産が守られてきました。

人吉の各地にある重要な文化的価値を持つ芸術品や財産は、相良家の物語を伝えてくれます。これらは、奈良時代（710～794 年）の仏像や、9 世紀にさかのぼる青井阿蘇神社などの祈りの場といったものです。相良家の統治がはじまったのは 12 世紀ですが、これらのものや、奈良時代や平安時代（794～1185 年）にさかのぼる多くの文化財が存在していることは、相良家がこの地域の文化を保護しようと努めてきたことの証しです。

相良一族のほとんどは、願成寺に埋葬されています。この寺は、相良家の初代当主である相良長頼（1177～1254 年）が 1233 年に建立した寺です。相良家が人吉・球磨を治めていた人吉城を散策することもできます。16 世紀からそのまま残っている石でできた城壁、再建された胸壁、狭間胸壁、門などは、人吉城（1589–1871 年）の当時の雰囲気伝えてしています。